



SNS・ネット利用についてのアンケート調査結果から

6月初めに、本校の全校生を対象に「SNS・ネット利用に関するアンケート調査」を実施いたしました。1, 2年生については、保護者の方にご記入いただきました。ご協力ありがとうございました。

そこで、アンケート調査の結果について、概要をお知らせいたします。

○ SNSやネットを利用しているかについて

- ・ 全体の約80%の児童が利用している。(4年生以上では、約90%近くが利用している。)

○ どんなことに利用しているかについて(複数回答で多かったもの)

- ・ 動画サイト(全体の半数)、「ライン」やメール、通信ゲーム、ネットショッピング・・・

○ 利用時間について(平日)

- ・ 1時間未満・・・全体の47% 1時間以上2時間未満・・・全体の35%
- ・ 2時間以上・・・全体の18%

○ 利用時間について(土・日・祝日)

- ・ 1時間未満・・・全体の23% 1時間以上2時間未満・・・全体の35%
- ・ 2時間以上3時間未満・・・全体の28% 3時間以上・・・全体の13%

○ 利用時間について(4月、5月の臨時休校期間)

- ・ 1時間未満・・・全体の35% 1時間以上2時間未満・・・全体の23%
- ・ 2時間以上3時間未満・・・全体の24% 3時間以上・・・全体の18%

○ ネット利用について家庭でルールを決めているかについて

- ・ 決めている・・・全体の84% 決めていない・・・全体の16%

○ ゲーム機やスマホにフィルタリングを付けているかについて

- ・ 付けている・・・全体の44% 付けていない・・・全体の44%
- ・ 付いているかどうか分からない・・・全体の12%

○ SNSやネット利用でトラブルがあったかについて

- ・ 数名の児童は、トラブルがあったと回答している。「悪口を書かれた」「仲間はずれにされた」「親とトラブルになった」など

本校児童のほとんどがSNSやネットの利用をしており、いくつかの問題が見られます。

- ① 利用している児童の約半数は、1日1時間以内で終了していますが、残り半数以上は、1時間以上利用しています。土・日の利用時間は長時間になる傾向が見られます。また、臨時休校期間も長時間利用している児童が多かったです。長時間利用している児童は、「ネット依存」・「ゲーム障がい」といった依存症になりやすいという懸念があります。
- ② ゲーム機やスマホにフィルタリングを付けていないと回答した児童も多いです。確実にフィルタリングをつけることが大切です。
- ③ 本校でもネット利用によるトラブルが数件発生しており、大きな問題にならないか心配される場所です。

学校では、情報モラル教育など各学年にあわせて指導をしているところです。今後も機会あるごとに指導をしていきますが、まずは各家庭において、ネット利用の危険性などを教え、ルールを決めて利用させるよう、ご指導をお願いします。(裏面に関連の新聞記事を掲載しました。ご覧ください。)

※ 昨年度の学校だよりも掲載したものです。
 大変参考になりますので、是非お読みください。

スマホ利用 親子で約束

スマホのルール例

あらかじめ親子で相談。違反した場合にどうするか決めておく

- 時間**
 - 午後何時まで
 - 1日何時間以内
- 場所**
 - 居間だけで使う
 - トイレや自室に持ち込まない
- マナー**
 - 相手の気持ちを考えた言葉遣い
 - 個人情報の扱いは慎重に
 - 知らない人とやりとりしない
- お金**
 - 有料のゲームやアプリは親に了解を得ずにしない
 - お小遣いの範囲内で使う



話し合い、制限設定を

春は進学や入学に合わせて、子どもにスマートフォンを持たせる家庭が増える時期。だが、いじめや犯罪に巻き込まれるリスクなど、心配事

は多い。親子でどんなルールを作り、何に注意すべきか。教育現場の現状や、インターネット依存に詳しい専門家に聞いた。

小学六年生で22%、中学一年生で65%。関東地方の小中学生の子と親五百組に、子どものスマホ所持を尋ねた昨年秋の調査結果だ。実施した「NTTドコモ モバイル社会研究所」によると、スマホを利用している家庭の八割以上で何らかのルールを決めている。決めておくべきです」と説く。

公立中学校の元教諭で、子どもとスマホの関係に詳しい兵庫県立大准教授の竹内和雄さんは「何時まで」「一日何時間」といった利用時間や、「居間に限る」

LINE(ライン)やツイッターなどの会員制交流サイト(SNS)を使うならば「知らない人とやりとりをしない」「言葉遣いに気を付ける」といったマナーを教える。オンラインゲームを認めるなら利用料の制限などを決める。親子で話し合い、納得の上で具体的に約束するのが大切だ。有善な情報にアクセスしないよう、年齢に応じたフィルタリングは必ず設定を。スマホの基本ソフト(OS)やアプリで制限をかけられる。動画投稿サイト「ユーチューブ」のように子どもにも人気のアプリでも、制限を設定できるものがある。

竹内さんは「子どもが好むアプリを親が理解していないと、問題が起きたときに対処できない。深みにはまる前に、相談しやすい関係、環境を整えてほしい」と訴える。

ネット依存専門外来がある国立病院機構久里浜医療センター(神奈川県横須賀市)は、パソコンやスマホの使用ルール作りの要点をホームページに掲載。医師の中山秀紀さんは「自由に使わせるのではなく、リビングなど親の目が届く場所で、平日は1時間、休日は二時間以内というように限定しましょう」と話す。「ユーチューブ」など次々と関連動画が再生できる仕組みは、依存状態を招くリスクが高い。また、発達障害の傾向がある子どもの中には、スマホにのめり込んでしまう子もいるといい、「利用し始めるのを可能な限り遅らせた方がいい」と注意を促す。

依存の手前の段階として、宿題を忘れたり、遅刻や欠席が重なったり、生活のリズムに乱れが出たりしたら、要注意。「睡眠と起床の時間は必ず守らせて」と中山さん。



勉強の合間にスマホを見る中学生。充電もリビングなど家族が長く過ごす部屋でさせるのがいいという